

福島第一原子力発電所事故対策等への ロボット技術の活用について

平成 23 年 4 月 13 日

日本学術会議東日本大震災対策委員会

福島第一原子力発電所の事故対策における緊急課題として、高い放射線量による作業員等の被ばくおよび作業遅延の問題の改善のため、国内外の豊富なロボット技術を、現場各所の放射線量監視、画像撮影、試料採取、センサ設置、機器操作、その他多様な対策作業の補助に、臨機応変かつ即時的に有効活用することが強く求められている。現場運用と開発、研究を一体化した継続的体制の構築が、今後も刻々と変化する事故状況への効果的な対応のために急務である。

このための緊急行動として国は、現場作業を担当する電力会社、消防、自衛隊、および関係省庁とロボット学専門家、原発・放射線専門家などで構成し必要な権限を付与した合同対策チームを発足させ、すでに活動しつつある国内外のロボット関連の大学、研究機関、企業等からなる技術支援チームと連携して、現場の状況に即応した継続的なロボット技術の活用を促すべきである。日本学術会議およびロボット関連学会はこれを積極的に支援する方針である。